



QUESTION's REPORT

京都市中心部、河原町御池交通差点にある京都信用金庫の新コミュニティ拠点「QUESTION(クエスチョン)」。本誌編集長の円城新子がパーソナリティを務める『QUESTIONラジオ×ハンケイ500m』、今回はデザイナーの太田菜那さんをゲストにお迎えしました。学生でありながら、デザイナーチームのディレクターとしても活躍する太田さんの今と未来に迫ります。※アーカイブはQUESTION公式HPより試聴できます。



昨年12月に行われたクエスチョンのイベント「SOCIAL GOOD DAY 2022 @QUESTION」。菜那さんは8階フロアで行われた「SOCIAL GOOD DOG」のポスターや、各種プロダクト制作で企画・デザイナーとして関わった。

vol.15

MANA OTA

デザインの力で伝えたい「作り手の想い」

グラフィックデザインをはじめ映像や広告、ウェブなど多様なデザインを学ぶ京都芸術大学3年生の太田菜那さん。学業の傍ら、デザイナーチーム「流流(りゅうりゅう)」のリーダーとして、企業のロゴや広告デザインなどを手がける。

大学1年生のとき、QUESTIONの学生会員になり、多様な社会人とのつながりができ、「デザインの仕事がかっこいい!」と話すうちに少しずつ声がかかるようになる。2021年、着物の帯を使ったアップサイクル・ブランド「ORIOBI(オリオビ)」とのコラボレーションで、ポーチやアクセサリーのデザインを手がけたのをきっかけに、印刷・フィルム加工メーカーのパッケージデザインプロジェクトなどに参画。デザインを通して地域の企業と学生を結ぶ役割も果たしている。

また、2022年12月にQUESTIONで開催された「SOCIAL GOOD DAY 2022」では、8階フロア「SOCIAL GOOD DOG」のクリエイティブディレクターを務め、生産者の想いを体験的に伝える空

間デザインが好評を博した。

「大学は表現だけを考えて制作できる場ですが、学外でいただく仕事は違う。コストや納期など多くの制限がある中でクリエイティブを追求せねばなりません」。大学の外に出て、発注者の想いやニーズに寄り添い、デザインの意図や背景をクライアントに説明する仕事をしながら、太田さんは“プロ”になる覚悟が固まってきた。

今年から大学を休学。QUESTIONを通じて続けてきたデザインの仕事を、より本格的に進めていくためだ。起業を視野に入れながら経営を学ぶほか、以前巡ったカンボジアで、現地の芸大生と一緒にデザインワークショップを開く計画もある。

「デザインの力で、作り手の想いをかっこよく伝えたい」と、笑顔で語る太田さん。デザインの役割を追求する真っ直ぐな姿勢が、周囲を巻き込みながら、地域や社会をワクワクした空間に変えていく。



太田菜那さん(写真左)

大阪府出身。2020年、京都芸術大学情報デザイン学科ビジュアルコミュニケーションデザインコースへ。デザイナーチーム「流流(りゅうりゅう)」のデザイナー兼ディレクター。2023年5月現在、休学中。

円城新子(写真右):本誌編集長

様々な人の『?』が集まる場所 -QUESTION-

ここQUESTIONは様々な分野の人が集まり、人と人、事業と事業をつなげていく共創空間です。コワーキングスペースで働いて、BARで一杯♪なんてことも可能です。また、イベントスペースでは、様々なイベントやマルシェも開催しています。※詳しくはHPまたはLINE等でご確認ください。あなたの「やってみたい」や「問い」をコミュニティマネージャーに相談してみませんか?

LINEの友達登録募集中!

日々のイベント情報を、SNSで発信しています!



「コミュニティメンバー」会員募集中!

QUESTIONホームページ

